

## 桜 島

### ○火山活動度レベル

火山活動度レベルは 2 (比較的静穏な噴火活動)でした。

### 概 況

ごく小規模の噴火は発生しましたが、爆発的噴火等<sup>1)</sup>は観測されませんでした。火山性地震の発生は少ないなかで、A型地震<sup>2)</sup>はやや多い状態が続いています。

### 噴火活動の状況

ごく小規模の噴火が時折発生しましたが、爆発的噴火等<sup>1)</sup>は観測されませんでした。

### 噴煙活動の状況

時折、火山灰を含んだ乳白色または灰白色の噴煙が観測されました。灰白色の噴煙の最高高度は 24 日の 300m でした。

### 地震・微動活動の状況

震動観測点 B 点(南岳火口の北西約 2.3km)での火山性地震の月回数は、236 回(4 月：125 回)でした。このうち A 型地震<sup>2)</sup>は 13 回(1 月：35 回、2 月：33 回、3 月：13 回、4 月：17 回)で、次第に少なくなってきましたが、桜島としてはまだやや多い状態です。震源が求まった地震は 7 回で、南岳火口周辺の海面下 0 ~ 5 km 付近に分布しました(図 3)。また、B 型地震は 223 回(4 月：108 回)でした(図 2 の )。

火山性微動は 2 回発生し、継続時間の合計は 1 分でした(4 月：3 回、継続時間計 3 分)(図 2 の )。

### 降灰の状況

鹿児島地方气象台(南岳の西南西約 11km)の観測では、降灰はありませんでした(4 月：なし)(図 1 の )。

### 地殻変動の状況

GPS による地殻変動観測では、昨年 11 月頃から今年 2 月にかけて各観測点間の距離の伸びがやや加速する傾向が見られましたが、3 月以降は伸びの傾向が緩やかになりました(図 4)。

1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは一定規模以上の噴火の回数を計数しています。

2) A 型地震は、P 波、S 波が明瞭で高周波が卓越した地震です。桜島ではマグマ等の貫入に伴い、地殻が破壊されるために発生していると考えられています。桜島の過去の活動においては、A 型地震が多発し、震源が浅部に移動した後、噴火活動が活発になることが知られています。

## 火口の状況

30 日、海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て、ヘリコプターによる上空からの観測を実施しました。観測時、噴煙はほとんど出ていませんでした。B 火口については、南側斜面の崩落が進んでおり、前回(平成 17 年 3 月 2 日)の観測時よりさらに土砂が堆積した部分(点線領域)が確認されました(写真 1、2)。



写真 1 2005 年 3 月 2 日の南岳 B 火口

写真 2 今回(5 月 30 日)の南岳 B 火口

撮影は海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て行った。

今回の観測では、火口内南側斜面が崩落し、点線領域の部分に土砂がさらに堆積している。

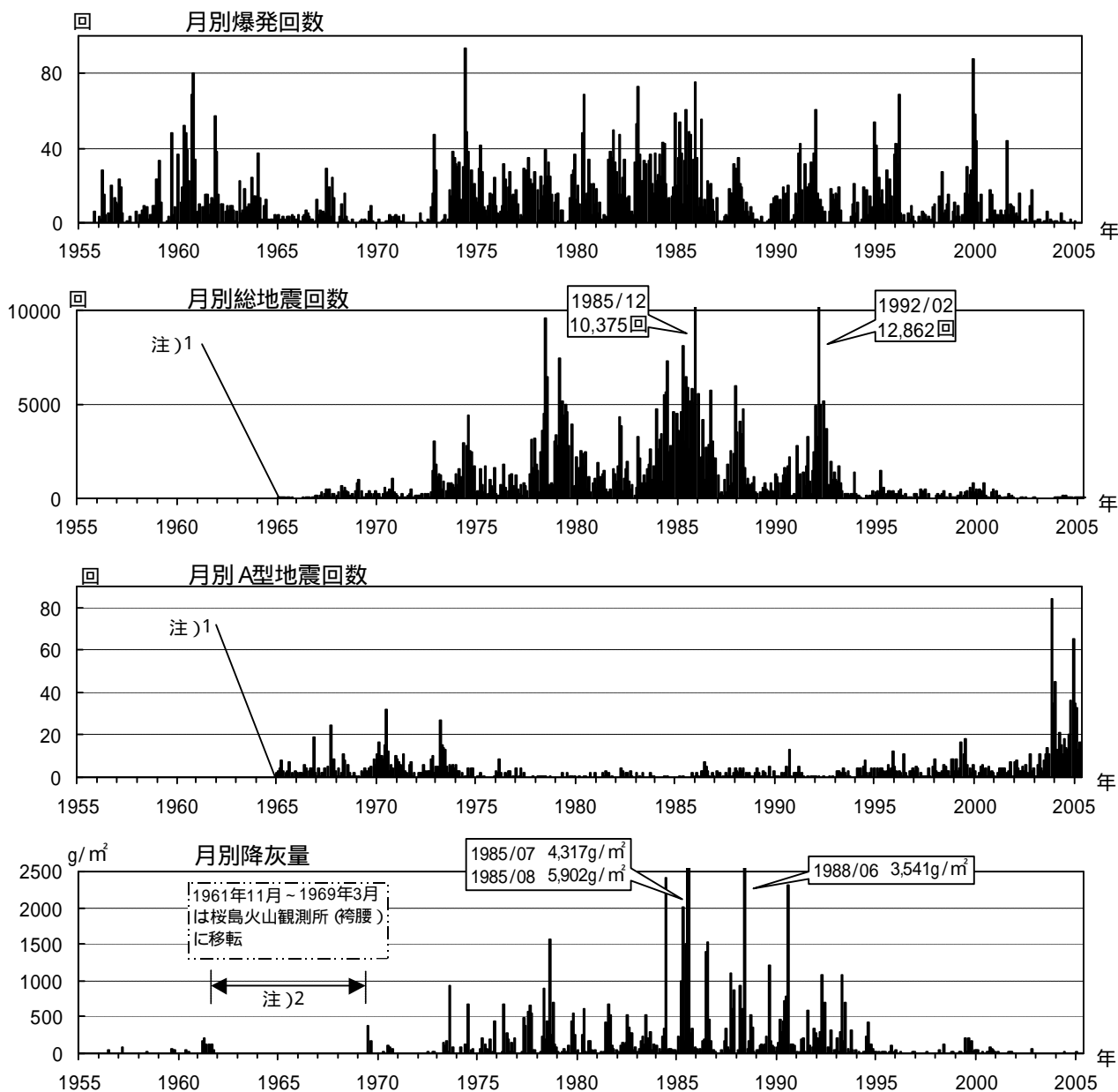
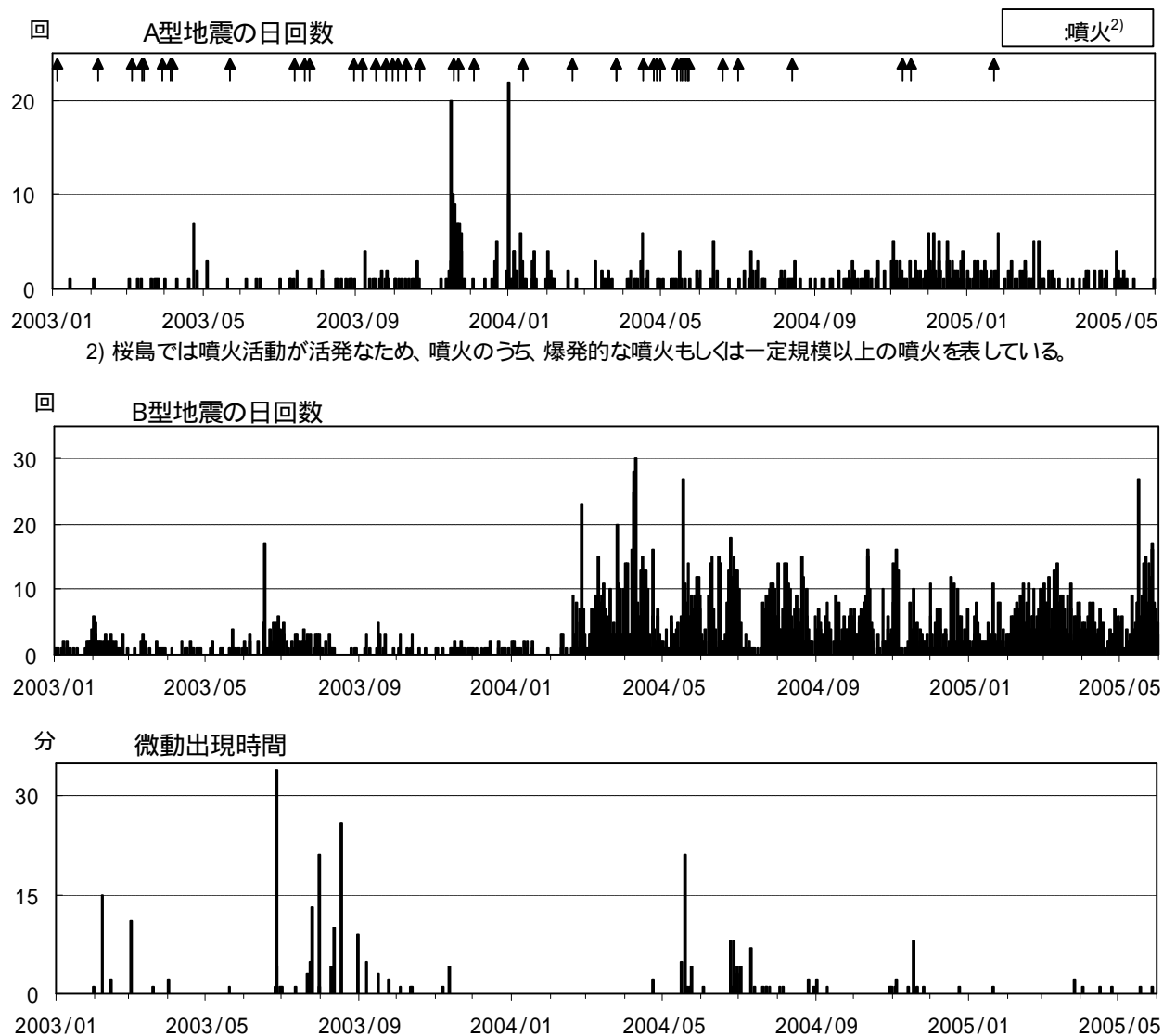


図 1 火山活動経過図(長期間)(1955 年 1 月～2005 年 5 月)

- 注) 1 : 震動観測点 A 点における総地震回数および A 型地震回数は、1965 年からのデータをグラフに示した。
- 注) 2 : 気象台での降灰量の観測は 1994 年 2 月 24 日までは鹿児島市荒田 1 丁目、同年 2 月 25 日以降は同市東郡元町において行なわれた。なお、1961 年 11 月から 1969 年 3 月までは桜島に観測所を移転したため降灰量の統計は中断した。



2) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは一定規模以上の噴火を表している。

図 2 火山活動経過図(短期間)(2003年1月～2005年5月)

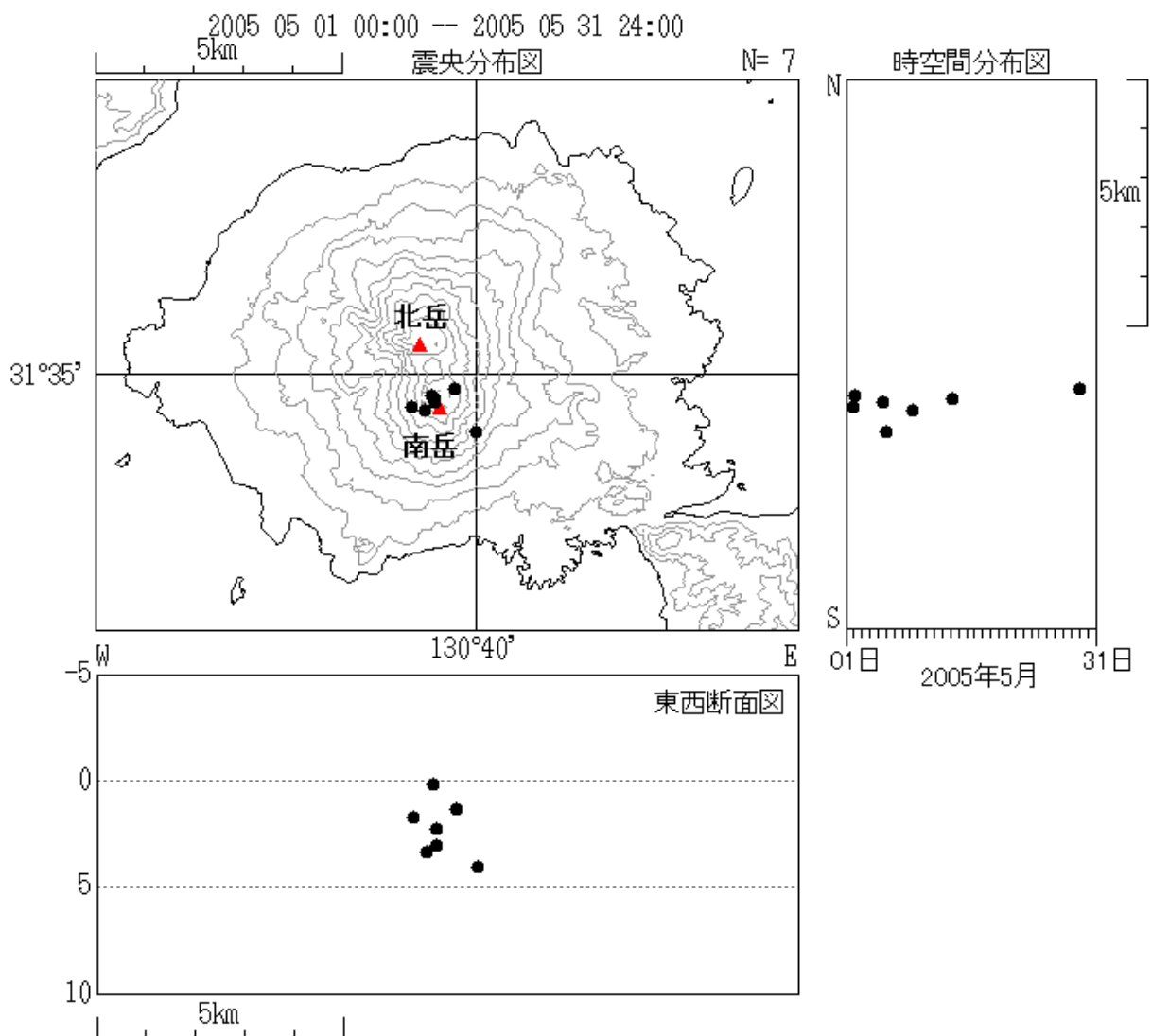


図3 火山性地震の震源分布図(2005年5月1～31日)  
本資料は、鹿児島大学、気象庁のデータを用いて作成している。

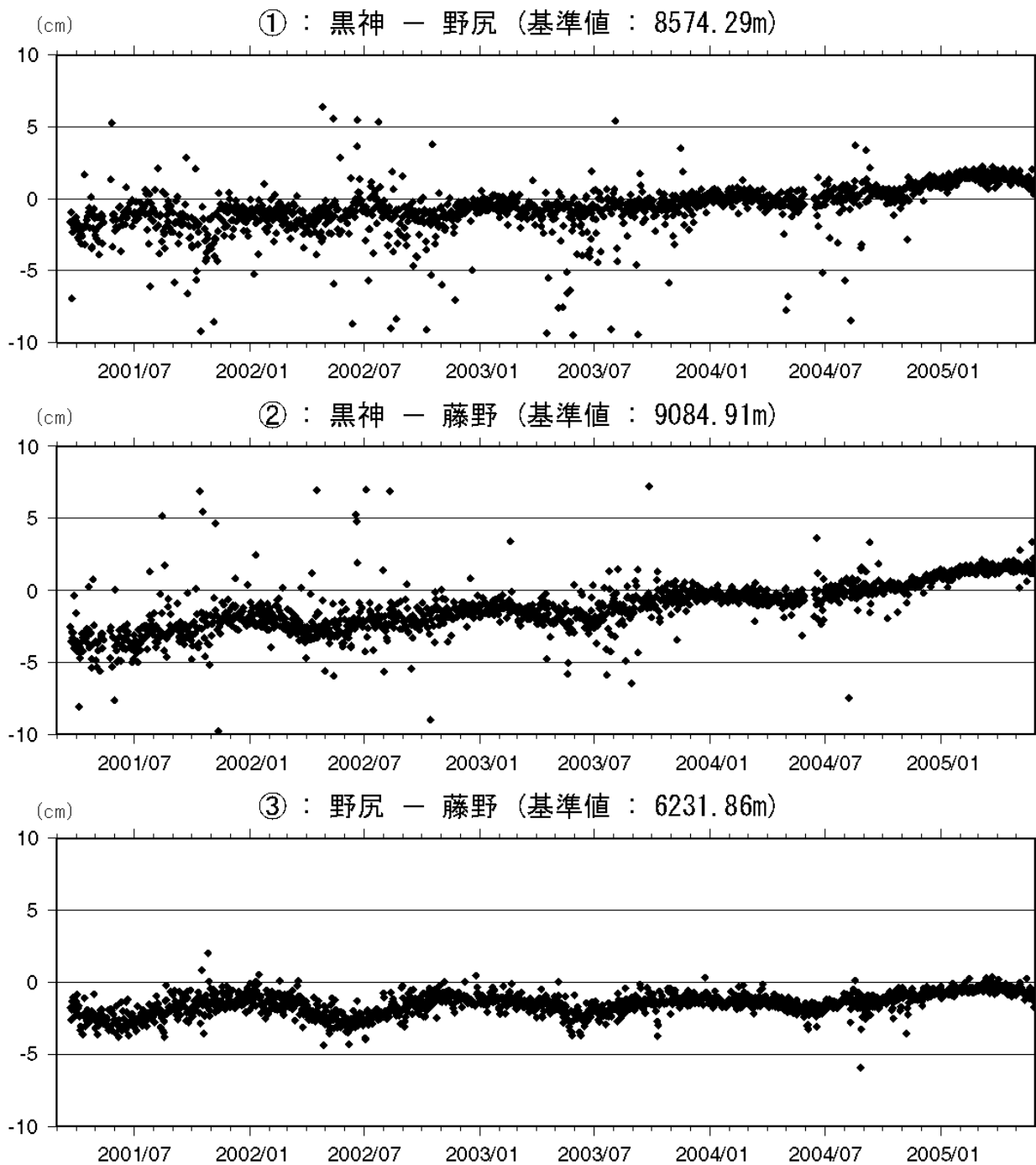


図4 GPSによる基線長変化(2001年3月22日~2005年5月31日)

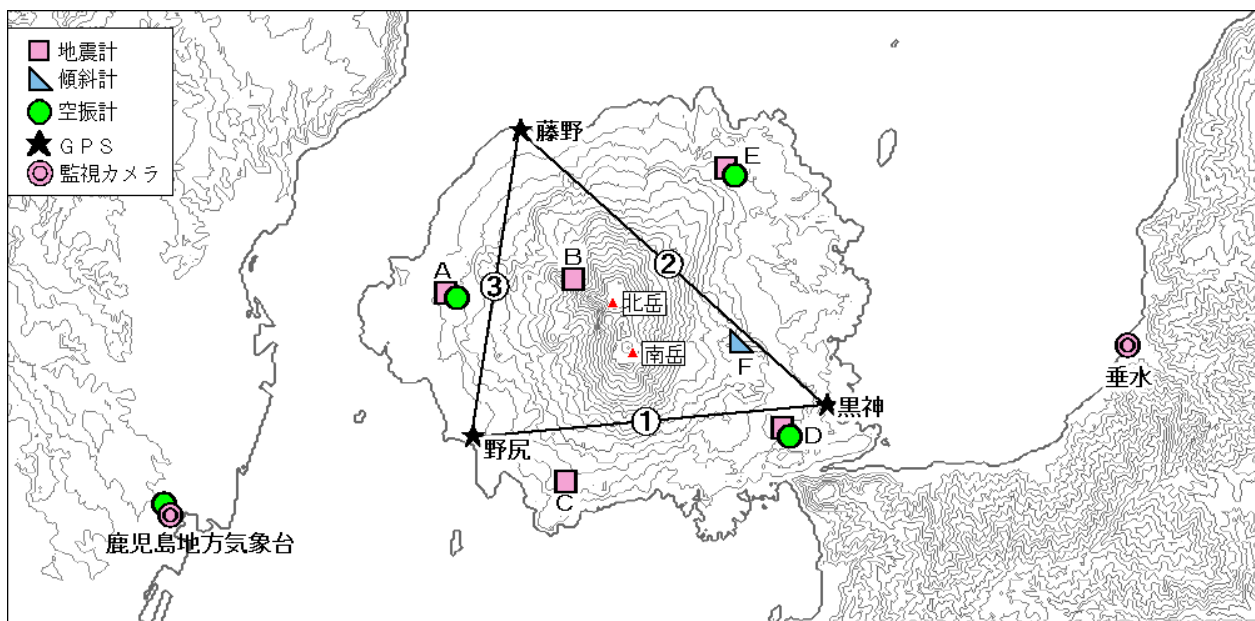


図 5 観測点位置図